

本科 2 期 12 月度

解答

Z 会東大進学教室

高 2 難関大英語 S

高 2 難関大英語



24 章 譲歩

問題

【1】

解答・解説

- (1) As, unless

最初の as は関係代名詞。

- unless S V 「S が V でない限り」

- (2) smartest

最上級には「～でさえ」という‘譲歩’の意味が加わる場合がある。もっとも、通常は even を明示して Not even the smartest student can solve this math problem. と書く方が自然である。

- (3) matter how

no matter + 疑問詞で「どんなに～でも」という意味になる。

- (4) It may ; as, may ; Though, may

〔名詞（無冠詞）, 形容詞, 副詞〕 + as S V, ～

= Though S V + 〔名詞（無冠詞）, 形容詞, 副詞〕, ～

本問では, Strange as it may sound, ～ = Though it may sound strange, ～となる。

- (5) to be ; Though, grant, to be

Granting は分詞構文と考えられる。

- (6) what, matter what

動詞の原形で始まる一連の譲歩表現がある。命令法（譲歩命令文）とも言われる

（【5】C. を参照）。

- Come what may, ～ = Whatever may come, ～

- (7) spite ; Though, did

- in spite of ～ = with all ～ = for all ～ = after all ～ = despite ～

- (8) Child as, Though

解説に関しては, (4) を参照。

【2】

A.

解答・解説

〔名詞（無冠詞）, 形容詞, 副詞〕 + as S V, ～ = As S V + 〔名詞（無冠詞）, 形容詞, 副詞〕, ～の構文は文脈によって‘譲歩’にも‘理由’にもなるので注意。

- (1) 「若いけれども, 彼はこの話題のすべてを知っている。」 = Though he is young, ～

- (2) 「若いので, 彼は依然無鉄砲である。」 = As he is young, ～

B.

解答・解説

Even if S V は‘条件’を強調して「仮に～だとしても（S Vは不確定）」という意味だが、Even though S V は‘譲歩’を強調して「事実SがVであったとしても（既にSはVである）」という意味になる。

- (1) 「(まだ雨は降っていないが) 今日雨が降るとしても、東京スカイツリーに行くつもりだ。」
- (2) 「(既に雨が降っていて) たとえ今日が雨だとしても、東京スカイツリーに行くつもりだ。」

C.

解答・解説

命令文は、～ever で書き換えられる点に注意する。

- (1) Be, However 「どんなに粗末であれ我が家に勝るところはない。」
- (2) However hard, try 「どんなに頑張っても、あなたは私を説得させられないだろう。」
- (3) Call when 「いつ訪れても、彼女は読書をしていることがわかるだろう。」

【3】

解答・解説

- (1) although → in spite of [despite]

「制限速度以下で運転していたにも関わらず、大阪に行く途中パトカーに止められた。」

although (I was) driving と考えられるが、その場合には、although driving と although の前にカンマを打つのが普通であるし、although 節は主節に先行して書くのが通例である。

○ squad car 「パトカー」

- (2) as を取る。

「誘惑は、耐えるのが大変なものであるが、我々にとって大変有益になる。」

- (3) No matter how the words are difficult → No matter how difficult the words are

「文法のルールさえしっかり覚えていれば、どんなに単語が難しくても、文章の骨組みから英文を理解することができるだろう。」

- (4) staying を取る。

「私が言いたいのは、エジプトほどにはインターネットを規制していないアラブ語圏の国が他にもあるけれども、そうした比較的自由な状況がいつまで続くかは明確ではないということだ。」

while は‘譲歩’の接続詞で「～だけれども」という意味になる。

- (5) even を取る。

「富にも長所がないわけではない。そうではないという主張は、よくなされてきたが、広く説得的であると証明されたことはない。けれども、疑いなく、富は理解の、容赦ない敵なのだ。」

even though S V とは言えるが、even although S V とは言えない。

○ relentless 「情け容赦のない」

【4】

A.

全訳

月の引力は地球の引力ほど強くないとしても、地球の大洋や海に何らかの影響を与える。
月の引力は大洋や海の水を引っ張る。すると水が盛り上がり、たいてい場所では水は数
フィートも高くなる。この水の盛り上がりが満潮と呼ばれる。

B.

解答

(1) 「全訳」参照。

(2) ⑤

全訳

メアリーは両親のけんかについての兄の説明には不満だったが、まだ幼かったので、気
にかかる心配事もついには考えなくなってしまった。

C.

全訳

物理学や数学であれだけの発見をしたにもかかわらず、ニュートンはそれらの発見はすべ
て、自分の目の前にまだ発見されないままになっている真理という大海と比べると、まった
く無に等しいものだと考えていた。

D.

全訳

戦争はよくないととてもよく知りながら、そして、他の何よりも戦争を恐れ憎みながらも、
どうも私たちは心ならずも戦争をし続けざるを得ないように思われる。

【5】

解答

(1) ① i ② f ③ g ④ e ⑤ b

(2) a

(3) a

(4) had created the illusion that we were acquainted

解説

(1)

① 「すれ違う時に何か適当なことを言えるように」

so that S can [will ; should ; etc.] … 「Sが…できるように」《目的》

so が略され、that のみ残ることもあるが、g that は③に入るのでここでは選択できない。

② 「学生が考えているよりも」前に more があることに注目する。

③ 「今や…なので」 now that …

④ 「ひとたび学校を出て働き始めると」 once 「いったん…すると」

⑤「私とその女性の顔が誰だか思い出す前に」 before … 「…する前に」

(2)

let alone … は否定文を受けて「…は言うまでもなく」という意味を表すので、**a** そして彼らの名前を覚えるのはなお難しかったが適切。

b しかし彼らの名前を覚えるのはその結果無理だった

c 私が彼らの名前を覚えていたにも関わらず

despite ~ = in spite of ~ 「~にも関わらず」 my は remembering の意味上の主語。

d 彼らの名前を覚えること自体とても時間がかかったので

since … 「…だから」《理由》 by itself 「①それだけで；単独で ②ひとりでに」

e 彼らの名前を覚えるのにはほとんど苦勞しなかったが though … 「…だが」

(3)

a 彼らがいるべきところにいるという《事実》

b 彼らが自信 (= confidence) をつけるという《事実》

c 彼らが誇りを抱いているという《事実》

d 彼らが学校を卒業するという《事実》

e それらが取るに足らないもの (= trivial) に思われるという《事実》

f 彼らが働き始めるという《事実》

(4)

○ Seeing her regularly in the train : 主語になる動名詞句。

○ the illusion と that 節は同格「…という錯覚」

○ acquainted 「①精通して ②知り合いで」

全訳

通りをこちらに向かって歩いて来る若い女性に何となく見覚えがあった。すれ違う時に何か適当なことが言えるように、以前どこで会ったことがあるのか急いで思い出そうとした。

私が教えている学生の1人なのだろうか。それも十分あり得ることだった。なぜなら彼女はちょうど学生にふさわしい年頃、20代前半くらいのものであったからである。私は大勢の学生を教えていたから、学生たちの名前は言うまでもなく、顔もほとんど覚えられなかった。構内でさえも、学生に気づかずあいさつをしなかったら冷たくてよそよそしいと思われるのではないかと心配で、建物から建物へと移動する時は落ち着かなかった。教師というものはそのようなことについて、学生が考えている以上に神経質であるのだ。

だがひょっとすると、彼女は学生ではないかもしれない。いろいろな理由で、例えば、講演とか、会議とか、教科書の企画とかで行った、どこか他のところで働いている人かもしれない。そう考えると、その女性は学生にしては、少し大人びているし、落ち着きすぎているように思えた。ささいなことのようには思えるが、ひとたび学校を出て働き始めると、確かにより大きな自信がつくものである。自分は今いるべき所にちゃんといて、その事実にある程度の誇りを抱くことができる、と感じているかのように。

ところが、その女性の顔が誰であるか思い出せないでいるうちに、彼女はすでに私のすぐそばまで来ていた。他にどうしていいのかわからないままに、私はにっこり笑って会釈した。最初彼女はあっけにとられたようであったが、それから彼女のほうでも会釈をして足早に歩

き去った。彼女のその反応に私は戸惑った。私は彼女がもう少し親しげな様子を見せてくれるものと思っていたからである。しかしその数秒後、私は思いついた。その女性のことなど私はまったく何も知らなかったのだ！ その人は、私が毎日街までの通勤電車の中でよく見かける女性にすぎなかった。電車の中でよく見かけるうちに、お互い馴染みであるような錯覚を抱いてしまっていたのだ。この次彼女に会ったらどうしようかと思った。

注

- ℓ. 1 ◇ something familiar : -thing, -one は後ろから形容詞に修飾される。
- ℓ. 2 ◇ hurriedly 「大急ぎで；あわただしく」
- ℓ. 4 ◇ Was she one of my students? : 著者の心の中を表した部分。以後文中で同様の表現がたびたび出てくることに注意。《描出話法》
 - ◇ since … 「…なので」《理由》
 - ◇ the right age : 学生であるのに相応しい年齢ということ。
- ℓ. 5 ◇ I had so many students (that) I could hardly remember their faces, let alone their names 「大勢の学生を教えていたので、名前は言うまでもなく、顔もほとんど覚えられなかった」
 - so ~ that … 「非常に～なので…」 that が省略された形。
 - hardly … 「ほとんど…ない」
- ℓ. 6 ◇ I felt nervous walking from one building to another 「ある建物からまた別の建物に歩く時に不安に感じた」
 - nervous 「神経質な；過敏な」
 - walking ~ : 様態を表す現在分詞。
 - one … another 「(3つ以上のうち) 1つ…また(別の) 1つ」
cf. one … the other 「2つあるうちの 1つ…残りの1つ」
- ℓ. 7 ◇ worried that my failure to recognize and greet a student would make me seem cold and aloof 「学生に気づかずあいさつをしなかったら冷たくてよそよそしいと思われるのではないかと心配して」 ← 私が生徒を認識せずあいさつをしないことが、私を冷たくよそよそしく見せるのではないかと心配して《直訳》
 - 付帯状況を表す分詞構文。
 - would : will よりも婉曲な表現。
 - failure to do 「…しないこと；…しそこねること」 < fail to do
 - greet 「～にあいさつをする」
 - make O do 「Oに…させる」
 - seem (to be) C 「Cのように思える；見える」
- ℓ. 8 ◇ sensitive 「敏感な」 cf. sensible 「思慮分別のある」
- ℓ. 10 ◇ a variety of ~ 「様々な～」
- ℓ. 11 ◇ she *did* seem … 「彼女は本当に…であるように思えた」
 - < 強調の do 「実際に；本当に」
 - ◇ too mature, too much in control of herself to be a student 「学生であるには堂々として落ち着いていすぎる」 too ~ to … 「～すぎて…ない」

- ℓ. 12 ◇ As trivial as it sounds 「ささいなことに思われるが」《譲歩》
 < Trivial as it sounds (補語 + as [though] + S V)
 ○ sound C 「Cのように聞こえる《思える、見える》」
 ◇ start ...ing [to do] 「…しはじめる」
 ◇ they do develop : 強調の do
- ℓ. 13 ◇ confidence in *oneself* 「自分自身に関する自信」
 ◇ It is as though ... 「それはあたかも…のようである」
 ○ as though [as if] 「あたかも～かのように」節は、その内容が事実と反するものでなければ直説法、事実と反するものであれば仮定法になる。《ここでは直説法》
 ◇ feel (that) they really belong now, and that ~ : feel は2つの名詞節を目的語にしている。はじめの that は省略されている。
- ℓ. 14 ◇ take pride in ~ 「～に誇りを持つ」 = be proud of; pride oneself on
 ◇ a certain amount of ~ 「ある程度の(量の)～」
- ℓ. 15 ◇ Not knowing what else to do 「他に何をすべきかわからなかったので」《理由を表す分詞構文》 = Since I didn't know what else to do
- ℓ. 16 ◇ nod one's head 「うなずく；会釈する」
 ◇ at first 「はじめは」
- ℓ. 17 ◇ as she walked quickly by 「足早に歩き去りながら」《時を表す接続詞 as》
 ◇ puzzle 「～を当惑させる」
- ℓ. 18 ◇ it は続く；以下の内容を指す。
 ◇ hit : ここでは「(人) に思い浮かぶ」の意。hit-hit-hit
 ○ It hits me = I come up with it
 ◇ not ~ at all 「まったく～ない」
- ℓ. 19 ◇ She was just someone (whom) I often saw ... と関係代名詞が省略された形。
- ℓ. 20 ◇ wonder + 疑問詞... 「…かしらと思う」
 ◇ the next time ... 「次に…する時」

【6】

解答・解説

- (1) a 「どれほど信じ難かろうと、私が先日語った話は、まぎれのない事実なのだ。」
 However incredible it may sound, ~ = No matter how incredible it may sound, ~
- (2) c 「私の祖父は私たちを東京ワンダーランドに連れて行くという約束を破った。たとえ妹はがっかりしたとしても、顔にはそれを見せなかった。」
 if = even if であり、過去の条件を表す直説法の if 節（開放条件）となる。
- (3) b 「本当に悲惨だよ。せっかくの休みなのにどこにも遊びに行かないなんてね。」
 when S V には「SがVなのに」という‘譲歩（逆接）’の意味を含む場合がある。
- (4) a 「私は彼に話すのが自分の責任であることを知っていた。それが容易でないことは知っていたけれど。私は彼に歩み寄り、言った。『こんにち。私はエマよ。アシスタントの一人なの。』小さな震えるような声で彼は恥ずかし気に答えた。『こんにち。僕は

ジョージです。』」

even though は「実際に～だけれども」と‘譲歩’を強調したもの。

- (5) c 「言いたくはないのだが、その警察官達は彼を公務執行妨害の現行犯で逮捕したのだ。」

(as) much as S V, ～は「(とても) SはVだが」と‘譲歩’の意味を含む場合がある。

【7】

解答・解説

- (1) As important as this mineral is, it is vital that you don't take too much.

最初の As は省略しても意味は変わらない。

○ As important as this mineral is, ～ = Though this mineral is important, ～

- (2) If death separates us, our memories will remain alive for good.

if には「もし～ならば」と「たとえ～でも (= even if)」の意味がある。

- (3) For all her genius, she is as unknown as ever.

○ for all ～ = in spite of ～

○ (as) ～ as ever 「相変わらず～で」

- (4) Admitting you're busy, I still think you should finish this task by tomorrow.

Though I admit you're busy, ～の分詞構文である。

- (5) Logic is doubtless unshakable, but it cannot withstand a man who wants to go on living.

○ doubtless ～ but … 「確かに～だが、しかし…」

○ withstand 「～によく耐える；逆らう」

【8】

解答

- (1) I had a good night's sleep.

- (2) The heat really gets me.

- (3) She is hard to please.

- (4) Where have you been? You have been very long.

- (5) Let's make it quick.

- (6) Take it from me.

- (7) There was nothing but snow as far as the eye could see.

- (8) There were privately-owned cars as far as the eye could see.

解説

- (1) 「ぐっすり眠った」「よく眠った」に対応する英語はいろいろあるが、今回よい機会なのでまとめておこう。

I had a good night's sleep.

(night's が所有格である点に注意。good, night's, sleep の3語はいずれも強く発音する)

I slept	like	a	log.	(←丸太のように)
			top.	(←こまのように)
			baby.	
			soundly.	
			heavily.	

Ex. I had a good night's sleep and I feel great. (ぐっすり眠って気分爽快だ。)

(2) 「～には参ってしまう」「～に閉口する」という時、

～	gets	me
	kills	

というパターンを用いる。これを用いれば、本問は

The heat really	gets	me. となる。
	kills	

この get は、辞書の「(病気などが) (人を) 圧倒する」という定義でおなじみ。

Ex. The pain got him in the back. (彼は背中が痛かった。)

Her illness finally got her. (彼女はついに病気にやられた。)

以下の kill も get と同じように、「(人を) 圧倒する」という意味である。

Ex. These new shoes are killing me! (買ったばかりの靴はきつくてたまらない。)

I'll finish my work today even if it kills me.

(どんなにつらくても、今日中に仕事を仕上げます。)

The long hike killed me. (長い徒歩旅行で疲労^{こんぱい}困憊した。)

(3) 「彼女は気難しい」に対応する、決まった言い方は She is hard [difficult] to please. である。この構文の特徴は、主語が to 以下の動詞または句動詞の目的語になる点にあるが、この文型をとり得る形容詞は

comfortable, convenient, dangerous, difficult, easy, exciting, hard, impossible, interesting, pleasant, safe

といった難易や快・不快を表す形容詞に限られる点に注意。

Ex. This river is dangerous to swim in. (この川は泳ぐと危険だ。)

She is really pleasant to talk to. (彼女は話し相手にすると実に楽しい。)

The 'r' sound is difficult to pronounce. (r の音は発音が難しい。)

また本問は She is a difficult [hard] girl [woman ; person] . としてもよい。

(4) 「どこへ行っていたの」とそれまでいた所を尋ねる時の決まり文句は Where have you been? が基本。これを Where have you gone? とすると「どこへ行ってしまいましたか」となり、変である。「ずいぶんゆっくりだったね」に対応する決まった言い方は、

You have been very long. である。

この long は形容詞で「ぐずぐずして；手間取って」の意味。

Ex. Don't be long! (ぐずぐずするな [早く帰ってこい]。)

He's long about his work. (彼は仕事に手間どる。)

I won't be long. (すぐ帰ってきます。)

この long は特殊なように見えるかもしれないが、元々は「(時間が) 長にかかる；長い」の意味で

It is long since I saw you last.

(お別れしてからずいぶんたちました。→久しぶりですね。)

の long と同じものである。

(5) 「早くしろ」と言うのであれば、

(Be) quick.

Hurry up.

Don't be long (about it).

くらいは思いつくだろうが、「早いこと済ませよう」に対応する英語はと言われると、すぐに答えられる者は少ない。答えは、Let's make it quick. で、これは決まり文句として知っていないといけな。

A : Can we stop at the bookstore? I want to buy *TIME*.

B : OK. But let's make it quick. I want to watch sumo on TV.

(本屋に寄っていかない。TIME を買いたいんだ。)

(いいよ。でも早いとこ済ませよう。テレビで相撲を観たいんだ。)

のように用いる。

「はやく」に対応する英語は盲点である。以下の例文を見てほしい。

「早く食べなさい。」

Eat quick.

※命令文では quickly はあまり普通ではなく、quick を用いる。

「このリングは早く食べないと腐ります。」

These apples should be eaten soon or it will spoil.

「冬の日は速く暮れます。」

The night falls fast in the winter.

「一番はやくできる料理はなんですか。」

What's the fastest thing you can serve [make] ?

(6) 「私の言うことを信じて」は条件がなければ、

Believe		me.
		what I say.

とできるだろうが、Take で始めて、という条件だと難問。

Take it from me.

という決まり文句を知らないが無理である。Take A from B という形は、「BからAを取る」から、

- ①「BからAを取り除く」
- ②「BからAを引用する」
- ③「BからAを奪取する」
- ④「BからAをひく」

- ① take the cigarette from one's mouth (口からタバコを取る)
- ② take some poems from the book (その本からいくつか詩を引用する)
- ③ He took from me what was mine. (彼は私のものを私から奪った。)
- ④ If you take 3 from 6, that leaves 3. (6から3を引けば3だ。)

といった意味へと細分化されるが、

Take it from me. は「私からそれをとって自分のテリトリーに入れてくれ」→「私を信じてくれ」となったもので、正確に覚えておくべき。

- (7) 「見渡す限り」に対応する英語は、as far as the eye can see である。see の代わりに reach を用いるのは、頻度が低いので避ける。as far as I can see は、「視界がはっきりしないが、見た限りでは」となるケースがあるので避ける。本問は「～だった」とあるので過去時制。したがって as far as the eye could see とする。

「一面の雪景色だった」は、「雪しかなかった」と考え、There was nothing but snow. としてもよいし、「すべてが雪に覆われていた」と考えて、Everything was covered with snow. としてもよい。

皆さんの中には、「雪しか見えなかった」と考えて、I saw nothing but snow. とした人もいると思うが、これは不自然であるというのが、テキサス州出身のインフォーマントのコメント。以上をまとめれば、

There was nothing but		snow as far as the eye could see.
Everything was covered with		

As far as the eye could see,		there was nothing but snow.
		everything was covered with snow.

となる。

- (8) 「見渡す限り」は、(7) で用いた as far as the eye can see を用いればよい。問題は「マイカー」をどう処理するかである。「マイカー」には「個人用の車」という意味と「家族用の車」という意味があり、前者であれば a private car で、後者であれば a family car と記述している和英辞典が多いが、a private car よりも、a privately-owned car とする方が明確でよい。ここでは前者の意味なので、この a privately-owned car を用いることとする。「マイカーの洪水でした」は、

There was a stream of privately-owned cars on the street.

これを簡単にすると、「道はマイカーで覆われていた」と考えて、

The streets were covered with privately-owned cars.

とすればよい。以上をまとめれば、

There were privately-owned cars		as far as the eye could see.
There was a stream of privately-owned cars		
The streets were covered with privately-owned cars		

As far as the eye could see,

there were privately-owned cars.

there was a stream of privately-owned cars.

the streets were covered with privately-owned cars.

となる。

今日の一言

Though modesty be a virtue, yet bashfulness is a vice.

「謙遜は美德だが、はにかみはよくない」

日本人は昔から謙遜を美德としてきたと言われているが、今はどうだろうか。自分の意見をしっかりと言う方が美德であろうか。できるようになった自分を自慢するのが美德なのだろうか。筆者は、本当に熟達するまでは謙遜していた方が格好よいと思っている。つまり、合格するまでは謙虚に学習を重ね、合格したら威張る、というのがよいと考えているのだが…

添削課題

【1】

解答・解説

- (1) The party ended without anybody coming up and talking to the few [small number of] women in anime cosplay, however (= no matter how) beautiful they were.
- (2) If we employed (many) more (attractive) female guides at the coming exhibition, we could improve the image of our company.
意味が英語とは明らかに異なるコンパニオン、和製英語のイメージアップはそのままでは英語として通じないことに注意。
- (3) Had he won an award at the contest, he could have got away from a life of working part-time jobs.
コンクールはフランス語由来、フリーターは和製英語であることに注意。
- (4) Lots of customers demanded that the car company (should) offer a first-rate after-sales service.
アフターサービスも和製英語。
- (5) Even though alcohol is considered dangerous, why is it so easy to buy it from vending machines in Japan?

【2】

解答例

- (1) you would never arrive at your destination [7 words]
- (2) you would study the map carefully [6 words]
- (3) you would pull over, look at your map, and get back on track [13 words]

25 章 省略・挿入

問題

【1】

A.

解答

- (1) What do you think I have in my hand?
- (2) Do you know what Tom said yesterday?

B.

解答

- (1) Did she say where she had met Sam (for the first time?)
- (2) Where did she say she had met Sam (for the first time?)

【2】

解答・解説

- (1) **c**「残念だが、彼女が回復する希望はたとえあったとしてもほとんどない。」
○数量の否定詞, if any「たとえ（数量が）あるとしてもほとんど～ない」
- (2) **d**「彼の家族は神社への初詣に、たとえ行くとしてもめったに行かない。」
○頻度の否定詞, if ever「たとえ（頻度として）いつかあるとしてもめったに～ない」
- (3) **c**「私の母は、大して変わりはないが、今日は少し良いほうだ。」
○if anything「少しでも差異があるとすれば；どちらかと言えば」
- (4) **d**「よろしければ、ちょっと経歴について話してもらえますか。」
○if you will「可能ならば；よろしければ」 ※ will は未来ではなく意志を表す。
- (5) **b**「私の母は、主として3人の母のない子供を抱えた父を助けるために私の父と結婚したように思われる。」
It seems that my mother married ～. という英文の主節 (it seems) が挿入されたもの。
- (6) **b**「これは、人々が『ネオゴシック』と呼びたがり、イタリア人が時代遅れと言うところの、新しい建築様式なのかもしれません。」
which (the Italians say) is unfashionable と考える (=連鎖関係詞節)。
- (7) **b**「バーボンウイスキーは、実際コーンとライ麦とモルトから作られているため、米国固有の唯一の蒸留酒である。」
made (as it is) from corn ～と、as it is (実際そうであるように) が挿入された形と考える。

【3】

A.

解答・解説

- (1) and hatred with hatred 「愛は愛で報われるが、憎しみは憎しみで報われる。」
反復を避けるための省略。省略を補うと, Love is repaid with love, and hatred (is repaid) with hatred. となる。
- (2) but getting a refund is not 「支払いは簡単、でも払い戻しは大変。」
反復を避けるための省略。省略を補うと, Paying is easy but getting a refund is not (easy). となる。
- (3) unless told not to 「行くなと言われたい限り行くよ。」
S + be の省略と代不定詞。省略を補うと, I'll go unless (I am) told not to (go). となる。
- (4) as if by magic 「魔法にかかったかのようにそのドアは開いた。」
S V の省略。省略を補うと, The doors opened as if (they did) by magic. となる。
- (5) What if this alarm went off 「この警報機が突然鳴ったらどうする？」
慣用的な省略。省略を補うと, What (would happen) if this alarm went off suddenly? となる。
- (6) I'm afraid not. 「トーマスは来週戻ってくるかな。」 「残念ですがそうは思いません。」
that 節の not の代用。I'm afraid not. = I'm afraid that he will not come back next week. となる。

B.

解答・解説

- (1) the other end high notes
「ピアノの片方の端は低い音を奏でるが、もう片方の端は高い音を奏でる。」
繰り返しを省略する。
- (2) Of course not
「スティーブンと付き合うつもりなの?」「もちろんそんなことないです。」
- (3) unless spoken to
「話しかけられない限り発言してはいけません。」
- (4) if not exercised 「債権または所有権以外の財産権は、20年間行使しないときは、消滅する。(民法 167 条 2 項)」
- (5) she me
「私は彼女を全く理解できなかったが、彼女も私を全く理解できていなかった。」
, nor could she understand me at all の省略形。

【4】

A.

全訳

本が教育において果たす大きな役割のために、人々は言語に関しておかしい考えを抱くようになってきた。そして、紙に書かれた語を構成する文字が真の言語であり、私たちが耳で

聞くことができる音声は文字より重要性の低いものにすぎないと、本当に思っている人も中にはいる。

B.

全訳

新鮮さと奇抜さがどんな豪勢な食体験にも重要な要素だと信じているので、アメリカ人は切望されていたよりはむしろ嫌われていた古くからいる種類の魚——鮫——に好奇心を向けたのだ。

C.

全訳

現在に関連して将来を考えることは、文明にとって欠くことのできないことである。文明国では、いかに平凡な労働者であってもそうする。利口な者なら、金を稼ぐとすぐに使ってしまうようなことをしないで、将来の必要に備えて、その金の大部分を貯えるものである。

D.

全訳

①戦争の恐怖は、長い目で見れば、戦争そのものよりも大きな害を人間の精神に与える。人々は絶えず他人を殺す方法を改良することに従事している。②ある人々は不信によって、また他の人々は密かな野心によって、互いに非難したり、脅かしたり、世界戦争が起こる可能性をそれとなくほのめかしたりする雰囲気の中に追い込まれているのである。

【5】

解答

(1) ① a m ② b d ③ c e ④ d c ⑤ e k ⑥ f i

(2) 「全訳」の下線部①、③参照。

(3) この共通語は、必ずしもエスペラント語のように人工的に構成された語や、英語、フランス語、ロシア語のような大きな国の言語でなくてもよい、ということ。

(4) d

解説

(1)

①直後で the world of our children and their descendants「我々の子供や子孫の世界」と言い換えられていることから、the world of tomorrow「明日〔未来〕の世界」とする。

②言語の修得は早ければ早いほど容易であるという常識から判断して the first grade「小学1年生」とする。

③ better yet「さらに良い」とあることから、「小学1年生」よりも早い時期、つまり「幼稚園」が適当である。

④後に when the individual's chances of coming in contact with the speakers of another language were slim indeed「個人が外国語を話す人たちと接触する機会が実に乏しかった時代」とあることから推測して、「故郷を出たり、祖国を離れたりする人はほとんどいなかった」とする。

⑤すぐ後の 'one out of a hundred' と対になっているので (e) にも数が入ることがわ

かる。

○ one out of ten 「10のうち1」

① 「外国へ旅行する機会に恵まれない人は、今日故郷を離れたことがないという人と同じくらい (①) となるだろう」とあり、文脈から *rare* 「稀な」を選ぶ。

(2)

① ○ needs 「必要なもの」

○ spoken and understood は language を修飾する過去分詞。

cf. language which is spoken and understood by ~

③ ○ the chances of $\left[\begin{array}{c} \text{travel} \\ \text{(and) contacts} \end{array} \right]$ abroad

○ 共通関係に注意する。「外国へ旅行し、外国に接触する機会」

○ at least 「少なくとも」 ⇔ at (the) most

○ double ~ 「～の2倍の」定冠詞または one's のつく名詞あるいは名詞節の前に用いる。

○ yours = your chances of travel and contacts abroad

(3)

○ 先行する2文を受けた表現。It does *not necessarily* have to be a constructed, artificial one, like Esperanto, nor one of the big national tongues, like English, French, or Russian. の省略表現と考える。not necessarily … 「必ずしも…ない」

(4) a 「海外旅行の機会」

b 「明日の世界」

c 「世界の習慣と思想」

d 「世界のための1つの言語」

○ この文の主題は下線部①の部分で述べられているように「皆から理解され、話される1つの言語の必要性」である。a ~ c も本文中に述べられているが、世界共通の1つの言語が必要とされる理由として述べられているだけで、文の主題ではない。よって表題としては不適当である。

全訳

世界中の子供たちが皆自分の母国語のほかにもう1つ他の言語を学ぶとすればどうなるであろうか。ただ単にもう1つ他の言語を学ぶというのではなく、共通語〔同一の言語〕を学ぶとすればどうなるだろうか。そうすれば、30年もすれば、通訳の必要もなくなるだろうし、我々の子供たちは世界中を旅行して、直接、容易に、そして自然に、国民の習慣や思想を知ることができるであろう。

① 今日の世界において最も必要とされているものの1つは、皆に話され、皆に理解される1つの言語である。しかし、この言語の必要性は未来の世界、すなわち、我々の子供やその子孫の世界では、はるかに高まるであろう。

この未来の共通語はエスペラント語のように人工的に作られた言語でなければならないであろうか。英語、フランス語、ロシア語のような大きな国の言語でなければならないのだろうか。必ずしもそうではない。どこかの国語であれ、人工的に作られた言語であれ、それが世界の諸国家の一致した意見で選ばれる言語でありさえすればどんな言語でもよい。

効果をあげるためには、この言語の教育は小学1年から母国語と平行して始められるべきであり、幼稚園の時から始めればさらによい。

ではなぜこのようなことがすべてそんなに必要なのであるか。それは非常に簡単な理由からである。

故郷を出たり、ましてや祖国を離れたりする人はほとんどいない時代、つまり個人が外国語を話す人たちと接触する機会が実に乏しい時代があった。ところがこの50年間にこうした事態はすっかり変わってしまった。今日では職業が何であろうとも、いつか外国旅行をする必要が出てくる確率は、19世紀には1パーセント（100に1つ）であったのに対し、少なくとも10パーセント（10に1つ）である。現在でさえ、ほぼ確実に、母国で英語以外の言語を話す人と意志疎通をはかりたいと思うことがあるだろう。

あなたがたの子供たちにとって、③外国旅行や外国と接触する可能性は少なくともあなた方の（可能性の）2倍である。あなた方の孫の場合の可能性は4倍になるだろう。1世紀以内には、外国へ旅行する機会に恵まれない人は、今日故郷を離れたことがないという人と同じくらい珍しいものとなるであろう。

注

- ℓ. 1 ◇ What would happen if all the children in the world learned ~ 「世界の子供全員が ~ を学ぶとしたらどうなるだろうか」
 - 事実に反する仮定を表す仮定法過去
 - ◇ along with ~ 「～と一緒に」
- ℓ. 2 ◇ their own (language) と補って考える。
 - ◇ Not just another language, but the same language? → *What would happen if all the children in the world learned not just another language, but the same language?* と補って考える。
 - ◇ In thirty years there would be no need for interpreters 「30年のうちに通訳は必要なくなるだろう」
 - 第1文の条件に対する帰結節。
- ℓ. 3 ◇ Our children *could* … 「我々の子供たちは…できるだろう」
 - 第1文の条件に対する帰結節。
- ℓ. 4 ◇ at first hand 「直接に」 *cf.* at second hand 「間接に」
- ℓ. 6 ◇ this need : 前文の 'a single language spoken and understood by everybody' 「皆によって理解され、話されるただ一つの言語」に対する必要性のことを指す。
 - ◇ far : 比較級を強める用法 「ずっと」
- ℓ. 7 ◇ descendant 「子孫」 ⇔ ancestor 「先祖」
- ℓ. 8 ◇ a constructed, artificial one, like Esperanto 「エスペラント語のように作られた人工的な言語」
 - constructed : one を修飾する過去分詞。
cf. construct 「～を組み立てる；構成する」
 - artificial 「人工的な；不自然な」
cf. art 「①芸術；美術 ②技術；要領 ③人工；人為 ④人文科学」

- one = language 「語の繰り返しを避けるための用法」
- ℓ. 9 ○ Esperanto 「エスペラント語」 「人造国際語」
- ◇ tongue [tʌŋ] 「①舌 ②言語」
- ℓ. 10 ◇ It merely has to be ~ 「それ (= this common language of the future) は～でありさえすればいい」
- merely = only
- ◇ whatever language, <挿入>, may be selected, <挿入>, by the nations of the world 「世界の諸国家によって選ばれるどんな語でも」
- 関係形容詞 whatever の用法 「…するどんな～でも」
- ◇ national or constructed 「国語であれ構成されたものであれ」
- ‘A or B’ で譲歩句を作って 「A でも B でも」 の意を表す用法
- ℓ. 11 ◇ in common accord 「皆一致して」
- accord 「一致；合致；調和」
- cf. of one's own accord 「自発的に；自然に」
- ℓ. 12 ◇ To be effective 「効果的にするためには」
- 目的を表す副詞用法の to 不定詞
- ◇ side by side with ~ 「～と平行して；～と並んで」
- ℓ. 13 ◇ better yet 「さらによいのは」 = better still [still better]
- ℓ. 15 ◇ homes：ここでは「祖国」の意。
- ◇ at (the) most 「せいぜい；多くて」 ⇔ at (the) least
- ℓ. 16 ◇ when the individual's chances of ~：前の when very (④) people left ~ をさらに言い換えた部分。
- ◇ come in contact with ~ 「～と接触する」
- ℓ. 17 ◇ slim 「①ほっそりとした ②くだらない ③ほんのわずかな」
- ◇ The last fifty years have changed all that 「この 50 年にこうした事態はすっかり変わってしまった」
- ◇ the probabilities that you, <挿入>, will be called upon at sometime or other to do 「あなたが…するよういつか求められる可能性」
- that は the probabilities の同格節を導く接続詞。「～という可能性」
- call upon [on] O to do 「O に…するよう求める；頼む」間に at sometime or other 「いつか；そのうち」が入った形であることに注意。
- ℓ. 18 ◇ whatever be your walk of life 「あなたの職業が何であっても」
- whatever ~ = no matter what ~ 「何が～しようとも」〔譲歩〕
- be：仮定法現在。譲歩節の中で用いられる用法。現在では直説法または助動詞 may を用いるのが普通。
- walk of [in] life 「職業」「世渡り；暮らし振り；職業；身分」の意の walk 《名詞用法》
- ℓ. 19 ◇ as against ~ 「～に比べて；対して」
- ℓ. 20 ◇ it is practically certain that ~ 「～ということはほとんど確実だ」

- it は that ～ を代表する形式主語。
- practically 「实际的に；実際には；ほとんど」
- ℓ. 21 ◇ on your own home soil 「あなたの母国において」
- ℓ. 23 ◇ fourfold 「4 倍の」
- ℓ. 24 ◇ the man or woman who has no occasion to travel abroad will be as rare as is today the man or woman who has never left his home town 「外国へ旅行する機会に恵まれない人は、今日故郷を離れたことがないという人と同じくらい珍しいものとなるであろう」
 - the man or woman who has no occasion to travel abroad まだが主語になる部分。
 - occasion 「機会；好機」
 - as rare as is today the man or woman who has never left his home town
 - as 以下で主語と述語が倒置されている形。
 - cf. as rare as the man or woman who has never left his home town is today
 - as ～ as … 「…と同じくらい～」

【6】

解答・解説

- (1) This notorious dog, who was called Tiger, had, I am sure, the longest list of bites of any domestic pet.
 「この悪名高い犬は、タイガーと呼ばれていたが、家庭で飼うペットの中でも最も長い噛み付きリスト（噛み付いた経歴）を持っていたと私は確信する。」
- (2) Much of the information that was passed on was ridiculously false, of course, and most of the news, even if true, was unclear and uncertain, but it travelled, so to speak, in nothing flat.
 「伝えられる情報の多くはもちろんばかげているほど間違っていたし、ニュースの大半は、たとえ正しいとしても不明確であいまいだった。しかしそれは、言わば瞬く間に伝わったのだ。」
- (3) level と education の間にコンマを追加し、level, education とする。
 「この希望を実現させた機関の中には、国連、占領部隊、そして違うレベルだがそれでも重要なレベルで、教育があった。」
 the United Nations, the forces of occupation, and education と3つが列挙された形であることに気が付けばよい。at a different but still important level を挿入句と考え前後をコンマで区切る。
- (4) 新聞や雑誌、そしてその他の現在残っている記録などがなければ、歴史家の仕事は、不可能とまでは言わないまでも、大変な困難を伴うことになるであろう。
 a very hard, if not impossible, time とコンマを打ち if not impossible を挿入句と考えるとわかりやすい。
- (5) 彼らは、汚染は工場からの酸化硫黄が原因だと主張したが、それも当然のことだった。and very justly は「そしてそれも当然のことですが」という意味の挿入句。

【7】

解答・解説

- (1) She knew what it was (that) I needed.
「私が一体何を必要としていたのか彼女は知っていた。」
強調構文 (It is ~ that ...) において that が省略されることがある。
- (2) Sophia is the last girl (who) would marry Daniel.
「ソフィアは絶対にダニエルと結婚するとは思えない女性だ。」
- (3) How kind (it is) of you to invite me!
「誘ってくださってありがとう。」
- (4) This summer we are going to stay at our uncle's (house) .
「今年の夏は叔父の家で過ごす予定だ。」
- (5) Michael wants to get ahead in life, whatever the cost (is [might be]) .
「マイケルはどんな犠牲を払っても、出世したいと望んでいる。」
複合関係詞構文 (-ever S V) において, be 動詞は省略されることがある。
- (6) The older the bird (is) , the more unwillingly it parts with its feathers.
「老いた鳥ほど、羽を失うのを嫌がるもの。」
'The + 比較級 + S V, the + 比較級 + S V.' の構文において, be 動詞が省略されることがある。
- (7) Could you please explain it to us so (that) we can understand?
「我々が理解できるようにそれを説明して頂けますか。」
so that S may [can; will] ~ (S が ~ するために) の that や so が省略される場合がある。
- (8) Lawmakers will soon have a better environment in which (they are (able)) to discuss the bill in the Diet.
「立法府はすぐに、その法案を国会で論議するためのよりよい環境を手に入れるだろう。」
- (9) The sun shines during the day and the moon (shines) at night.
「日中は太陽が輝き、夜間は月が輝く。」
- (10) Mother stopped suddenly as if she (were [was] going) to listen.
「母はまるで聞こうとするかのように、突然口をつぐんだ。」
as if S V (まるで S が V するかのように) は有名だが, as if to do の形式もあることに注意。

【8】

解答

- (1) I like it here.
- (2) What are you majoring in?
- (3) Take hold of this rope.
- (4) Don't let go of it.
- (5) I'm all ears.
- (6) Don't get me wrong.
- (7) That the earth is round was discovered around five hundred years ago.

(8) People say Japanese people drink twice as much coffee as they did ten years ago.

解説

(1) 「ここが気に入った」という時の決まり文句は, I like it here.

「気に入った」だから like 1 語ではまずいのではと思う必要はない。この it は「漠然と発話時点の状況・事情を示す it」といわれるが、特別な意味合いはない。そんなわけで、I like it here. のような決まり文句は分析してもあまり意味がない。こうした表現は英米人にとっては空気のような存在で、我々はそのまま覚えこむのがよい。

I like it here. の it と同種の it を含む例文をあげておく。すべて入試でねられるものばかり。

Go to it. (頑張ってやりなさい。)

That's about it. (まあそんなところだ。)

That's all there is to it. (ただそれだけのことだ。)

Confound it! (いまいましい。)

Out with it. (残らず白状しろ。)

We had a good time of it. (大変楽しい時を過ごした。)

As soon as I saw his angry face, I know I was in for it.

(彼の怒った顔つきを見ると、厄介なことになったなと思った。)

(2) 「何を専攻していますか」と聞く時の決まり文句は、

What are you majoring in? または、What's your major?

major in の他に specialize in があるが、アメリカでは普通、学部レベルでは major in、大学院以上のレベルでは specialize in を用いる。また、イギリスでは少々古風だが read を用いて、What are you reading? のような表現を用いる場合もある。

Ex. 「私は言語学を専攻した。」

I		majored		in		linguistics.
		specialized				
		read [rɪd]				

(3) 「～をつかまえる；つかむ」は1語で言えば grasp, catch, seize, hold などになるが、「take を用いて」という条件があるので名詞形として hold を用い take hold of という句動詞を用いなくてはならない。したがって、解答は Take hold of this rope. となる。この形の変形としては catch hold of, get hold of, grab hold of, lay hold of [on ; upon] がある。

cf. Hey, Wright, take hold of your right ear with your right hand at the next light, right?

(ライトよ。次の信号のところで右手で右の耳をつかみなさい、わかりましたか。)

(4) 「つかまえているものを離す」は前述の名詞形としての hold を用いれば lose hold of となる。

Ex. I lost hold of the rail and fell into the sea. (手すりから手を離し、海に落ちた。)

では、go を用いて「～を離す」を意味する表現はといえば、let go of ~ である。したがって、解答は Don't let go of it. となる。ただし、口語では of を省略して Don't let go it. と

しても可。また, Don't let it go. Don't release (your hold on) it. とも言える。

なお, let go of ~ の go は動詞であって, このように let の直後に動詞の原形がくる慣用句は盲点となるので少々例を挙げておこう。

e.g. let fall [drop] (落とす)
let fly (飛ばす; 投げる)
let slip (逃がす)
let slide (成り行きにまかせる)

Ex. She begun to her work slide. (彼女は仕事をそっちのけにしだした。)

- (5) 「ちゃんと聞いていますよ。」を3語で言えば, I'm all ears. となる。これは入試では頻出し, 形式のみならず, 使いどころも頭に入れておかななくてはならない。

all の用法の一つに, 主に be 動詞の後で, 身体の一部を表す複数名詞, または性質を表す抽象名詞につけて「ひたすら (…する); ~に満ちた; ~そのものだ」という意味になる用法がある。具体例を挙げれば,

be all		smiles (大喜びだ)
		thumbs (不器用だ)
		kindness (親切そのものだ)
		innocence (無邪気そのものだ)
		apologies (しきりに謝っている)

などがあるが, これらと同じ形式が be all ears である。be all ears は, 直訳すれば, あるいは辞書的には「一心に耳を傾けている」となるが, I'm all ears. となると, 「ちゃんと聞いていますよ。どうぞ話して下さい。」という意味で, 相手に話をうながす時によく用いられる表現。日本語で言う「ふん, ふん」にあたり, I'm listening. とほぼ同意である。

- (6) 「誤解しないで下さい。」を英訳させるとたいていの学生は,

Don't misunderstand		me.
		what I say.

とする傾向にあるが, これは硬い表現で, しかも4語でという条件に合わない。口語体では,

Don't		get		me wrong.
		take		

というのである。(4語でという条件にも合っているのでこれが正解。) これは入試では頻出するので, 必ず覚えておくべき表現である。

Ex. A : You don't think I can handle the job, do you?

B : Don't get me wrong. I just said it's a tough job.

(この仕事は僕の手には負えないと思っているんですね。)

(誤解しないで下さい。ただこの仕事は骨が折れる仕事だと言っただけですよ。)

- (7) 「地球が丸い」は the earth is round. 「地球が丸いということ」なら, この文を名詞化すればよいのだから, 名詞節を導く接続詞 that を文頭につけて that the earth is round とすればよい。本問ではこの that the earth is round を主語にして, 「このことが

およそ 500 年前に発見された」という構造の英文にすればよい。

つまり、That the earth is round was discovered around five hundred years ago. となる。もちろん、仮主語の it を文頭において、It was discovered で書き出してもよいが、around five hundred years ago が was discovered を修飾することを明確に示す英文にする必要がある。そのためには、was discovered の直後つまり、that 節の直前に around five hundred years ago を置いて、

It was discovered around five hundred years ago that the earth is round.

としてもよい。また、強調構文を用いて、

It was around five hundred years ago that that the earth is round was discovered.

とするのも、文法上は可能であるが、強調構文は、特定の目的をもって用いられるもので、乱用すべきものではない。したがってここでは避けた方がよい。

(8) 「～だそうだ」に対応する英語は、

They	say	that ~
People		
It is said		
I hear		
I'm told		
I understand		
Rumor has it		
According to rumor,		

いろいろあるが、すべて同じに使えるわけではない。本問はカジュアルな内容なので、People [They] say that ~ を使っておく。

「2 倍飲むようになった」は、現在、過去と比べて実際に 2 倍飲んでいるという内容だから、現在形でよい。「この 10 年間で 2 倍コーヒーを飲むようになった」という日本語を「10 年前よりも 2 倍コーヒーを飲んでいる」と考えるのが、過去と現在を明瞭に対比させる英語の発想。以上を踏まえれば本問は、

People | say (that) Japanese people drink twice as much coffee they did ten years ago.
They |

となる。ところで、twice の代わりに two times とした人もいるかもしれないが、これは不可。倍数表現は、

twice	as ~ as ...
three times	
four times	

の形式をとる。基本事項は徹底的に身につけておこう。

今日の一言

A bad habit, once formed, is difficult to get rid of.

「悪癖は一旦身につくとなかなか治らない。」

once (it is) formed が挿入されている。無くて七癖と言うが、人間誰にでも癖はあるものだ。それが個性として認められてしまえば問題ないのだが、周囲に^{ひんしゆく}輦蹙を買ったりする場合には問題である。試験中に貧乏ゆすりとか、鉛筆の音をやたら大きく出すとか、ある意味仕方ないが、多少は周囲への配慮をしたほうがよいと思う。え、Z会のテキストを復習する癖がついてしまった？ それはよいことである。

26章 itを含む構文

問題

【1】

A.

解答・解説

- (1) Even more important is the need to amend the Constitution.

「憲法を改正する必要性の方がはるかに重要だ。」

一般に、SVCのCを強調して文頭に置くと、CVSの語順になる。ただし主語が代名詞の場合はCSVの語順になる。 Ex. Right you are.

○ amend ～「～を改正する」

- (2) What we use every day we owe to science.

「私たちが毎日使うものは科学のおかげによるものである。」

一般に、SVOのOを強調して文頭に置くと、OSVの語順になる。

- (3) On this depends his future.

別解 On this his future depends.

「彼の将来はこれにかかっています。」

SVMのMを文頭に出すとMSVかMVSになる。

- (4) Not a word did Susan say.

「スーザンは一言も言わなかった。」

目的語であっても否定語を含む場合は、その後が倒置される場合が多い。

- (5) On no account must you take any drug.

「絶対にドラッグに手を出してはいけません。」

否定の副詞(句)が文頭に置かれるとその文は倒置になる。

○ on no account 「どんなことがあっても…ない；決して…しない」

- (6) Out went the candle.

「そのろうそくが消えました。」

運動の方向や場所などを表す副詞が文頭に置かれるとその後は倒置される。ただし主語が人称代名詞の場合はMSVの語順になる。次の(7)に注意。

- (7) Here she comes.

「彼女が来るぞ。」

- (8) At no time in history have parents been more unsure of their parental role.

「両親が親の役割についてこれほど不安に感じていることは歴史上、以前にはなかった。」

At no time in history という否定の副詞句が強調のため文頭に来たことにより、その後が倒置される。

- (9) It is health that can make everyone truly happy.

別解 It is health that makes us truly happy.

「皆を本当に幸せにできるのは健康だ。」

It is ~ that …の強調構文（分裂文）にする。

- (10) Who doesn't know that the Earth is round?

「地球が丸いと知らない人はいるのであろうか（いや皆知っている）。」

修辭疑問文にする。

B.

解答・解説

- (1) very → much

「この新しいペンは古いやつよりはるかによい。」

very は比較級を強調できない。much, far, still, even, yet, a lot などを用いる。

- (2) much → very

別解 the much smartest → much the smartest

「エミリーはこの学校ですば抜けて賢い。」

最上級を強調するには, much the best, by far the best, the very best などの形になる。

- (3) in the earth → on earth [in the world]

「学生たちを悩ませたのは一体何だったのだろうか。」

疑問詞を強調するには ever, on earth, in the world, is it that などを用いる。

- (4) So great the power of his music was that → So great was the power of his music that

「彼の音楽の力はすごかったので私たちは感動して泣いた。」

so ~ that …構文において so ~ が強調されて文頭に置かれるとその後が倒置形になる。

- (5) To his much disappointment → Much to his disappointment [To his great disappointment]

「彼が大変失望したことには, 彼の息子はそのレースで勝てなかった。」

'to one's + 感情を表す名詞 (～が…したことには)' の構文で, 感情を強めると, 'much to one's + 感情を表す名詞' もしくは 'to one's great + 感情を表す名詞' の語順になる。

C.

解答・解説

- (1) It was Michael that went to the British Museum alone because his wife felt sick.
(2) It was to the British Museum that Michael went alone because his wife felt sick.
(3) It was because his wife felt sick that Michael went to the British Museum alone.
(4) Michael did go to the British Museum alone because his wife felt sick.

【2】

解答

- (2) のみ。

解説

- (1) 「元日に神社にお参りするの日本人の習慣だ。」

It は形式主語で, that 節が実質主語。

(2) 「野球をしている間に学生たちが割ったのはこの窓だった。」

目的語を強調した強調構文。

(3) 「人間の中でユーモア感覚ほど厳粛なものはない。それは全ての真実を知りたいという印である。」

It = his sense of humor で that は同格の接続詞。

(4) 「帳簿の情報が適正かどうかをチェックするのが公認会計士の任務である。」

It は形式主語で, to check 〜が実質主語。

○ CPA = certified public accountant (公認会計士)

(5) 「民主主義はなくてはならないものだ。それは専制政治や独裁制から守らなければならない信念なのだ。」

it = democracy で that は関係代名詞。

【3】

ポイント

It is ~ that ~ that …の形を扱っている。どの that と強調構文が形成されているのかを考えよう。

解答・解説

(1) 私たちを駆り立てたのは、社会に役に立ちたいとの思いだった。

初めの that は同格, 次の that で強調構文ができている。

(2) 我々が住む現在の社会を作ったのは、他ならぬ技術に対する信頼だ。

初めの that は強調構文を作り, 次の that は関係代名詞。

(3) その国を偉大にした自由こそが、その国民が世界で繁栄するのを可能にした。

初めの that は関係代名詞, 次の that で強調構文ができている。

○ flourish *vi.* 「繁栄する」

(4) (アインシュタインが非常に異なっていたことを認めることが重要だ。) 彼を有名にした思想を彼に生み出させたのは、この違いだった。

初めの that は強調構文を作り, 次の that は関係代名詞。(2) と同じ形式。

【4】

A.

全訳

人があるジョークを面白いと思うか思わないかは、国民性に大きく左右される。例えば、フランス人はロシア人のジョークを聞いて笑うのは難しいと思うかもしれない。同様に、ロシア人は、イギリス人を涙が出るほど笑わせるようなジョークに何の面白さも見出せないかもしれない。

B.

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) 普通の外国人が日本語を話せるとは誰も思っていなかったので、外国人に日本語で話しかけることは誰もせず、英語で話しかけるか、まったく話しかけないかのどちらかであったが、今度は、このことによって日本語を勉強している外国人が練習相手を見つけることが非常に困難になった。
- (3) often took a long time for their Japanese to improve

全訳

①ひょっとすると、20年近く前に私が来日して以来起こった変化の中で最大のものの1つは、日本在住の大半の外国人が日本語でコミュニケーションできることを当然だと思っている日本人が今では多いことかもしれない。普通の外国人が日本語を話せるとは誰も思っていなかったので、外国人に日本語で話しかける人は誰もいなかった。英語で話しかけるか、まったく外国人に話しかけないか、どちらかであった。今度は、このことによって日本語を勉強している外国人が練習相手を見つけることが非常に困難になった。その結果、彼らの日本語が上達するのにかなりの時間を要するが多かった。こういった外国人に対する日本人の伝統的な態度は、今日でさえ完全になくなっていることは決まっていのである。

C.

全訳

富の追求と幸福の追求は伴って生じることが多い。しかしながら、最高の幸福を生み出すのは、富を手に入れることよりも、むしろ富を追い求める過程であるという場合がしばしばある。金持ちになった男女は彼らが最も幸福だったのは生きるために奮闘していた時期であったと、再三再四回想するのである。

D.

解答・解説

- (1) c
- (2) 人間の赤ん坊は他の人間の世話を受けなければ生きていけないことと、言語を習得する能力を持っていること。
- (3) ア. 「全訳」の下線部⑥を参照。

イ. c

a 補語になる名詞節を導く接続詞／b 主語になる名詞節を導く接続詞(形式主語によって受けられている)／c 強調構文の that／d 目的語になる名詞節を導く接続詞(形式目的語によって受けられた形)]

全訳

人間の赤ん坊は、世界のどの地域のどの社会に生まれてきた場合でも、他のどんな赤ん坊とも2つの共通点をもっている。第一に、そしてこれは極めて明白なことであるが、新しく生まれた赤ん坊は完全に無力である。たとえ母親であれ祖母であれ乳母であれ、誰か他の人

間の世話を受けなければ、赤ん坊が生きていける可能性は極めて乏しい。

①人間の赤ん坊が、欠陥のない他のすべての人間の赤ん坊と共有する第二の特徴、すなわち言語を習得する能力を示すのは、他人に全面的に依存しているこの期間なのである。

【5】

解答

- (1) 言い習わしが一般大衆に採り上げられて吸収され、諺となる過程。
- (2) d
- (3) c
- (4) ㉔
- (5) their origin
- (6) 0

解説

- (1) 前の文の内容を受けた部分。
- (2) ②の「干草は陽の照っている間に作れ」というのは、好機を逸するな、ということ。これと同じ事を述べているのは d である。
 - a 早い時期の迅速な行動は将来の深刻な問題を防ぐ。
 - b 不幸な状況にもかかわらず明るく努め、最善を尽くせ。
 - c 何事も急ぎすぎてはならない。
 - d 我々は常に有利な状況を利用すべきである。
- (3) 「農夫なら誰も、この考えをおそらくそっくり『干草は陽の照っている間に作れ』という言葉で表現することがなくとも、この諺の考えが正しいと感じていたであろう。」
 - quite 「①全く；完全に ②かなり ③まったくその通り」
- (4) ㉔の it は強調構文の it。他の it は this thought を指す。
- (5) 前文の内容参照。
- (6)
 - a 創作者が口頭で言い習わしを言い伝えたならば、その起源はたどることができる。(×)最後の 1 文において、もし書き記してあれば、起源をたどることができる場合もある、とあるので合致しない。
 - b すべての諺の起源は、特定の人間あるいは特定の状況ではなく、大衆の知恵が集まった所にある。(×)
 - ℓ. 3 It is safe to assume that every proverb had an origin in a specific person or specific situation 「どの諺の起源も特定の人か特定の状況にあったと想定しても妥当であろう」に反する。
 - not A but B : AではなくB
 - c 諺は、まさにその性質のために、記憶しやすく、多くの人々が様々な違った解釈をする。(×)
 - ℓ. 11 But after ～ の部分に「多くの人々が様々な表現し、その試行錯誤の結果、最も覚えやすい形となった」とある。

- d 言い習わしは、特定の人と共に徐々に諺の形態へと変わり、いまや日常経験を要約するものとなっている。(×)

ℓ. 9 without any one single originator 「特定の考案者なしで」とあるので合致しない。

全訳

ある言い習わしが諺になるには、それが一般大衆に採り上げられて吸収されなければならないが、その過程でその諺の起源は忘れられてしまうことがよくある。その言い習わしがいったん諺になってしまうと、大衆の知恵の一部として使われるが、その諺を用いる人はもはやその起源には関心を持たない。どの諺の起源も特定の人か特定の状況にあったと想定しても妥当であるが、非常に古い諺の場合、この起源が全くわからなくなってしまうものが多い。したがって、諺は大衆に起源がある、すなわち、その起源は民衆の英知が集まった所にあるというのが妥当であろう。多くの場合、これはほぼ文字通り真実であったに違いない。日常の経験を要約している多くの諺においては、誰か1人が最初に言いはじめたというのではなく、その言い習わしがおそらく次第に発達して諺の形になっていったのであろう。農耕に起源がある「陽の照るうちに干草を作れ」という諺が適切な例である。農夫なら誰しも、この考えをおそらくそっくりその言葉で言い表すことがなくとも、この諺の考えが正しいと感じていたであろう。しかし、非常に多くの人がこの考えをいろいろ違った言い方で表し、試行錯誤を重ねて、ついに最も覚えやすい形を見いだしてから、その形で諺として生きつづけたのである。

一方、同じく明らかなことであるが、ある特定の賢人に起源がある諺も多くある。言った言葉だけを我々がよく知っている賢人にその起源があるという場合は、もちろん記録された証拠を手に入れることはないだろうが、文書に思想が書き残されている賢人にその起源がある場合は、その起源をつきとめることができる時もある。

注

- ℓ. 1 ◇ To become a proverb 「諺になるためには」《目的を表す副詞用法の不定詞》
◇ take up ～ 「～を採り上げる」
◇ absorb 「～を吸収する」
- ℓ. 3 ◇ as part of popular wisdom 「大衆の知恵の一部として」
◇ no longer … 「もはや…ない」
◇ It is safe to assume that ～ 「～だと想定しても妥当である」
- ℓ. 4 ◇ assume that ～ 「～とみなす；～だと思い込む」
◇ specific 「明確な；はっきりとした」
◇ with many of the very old ones 「非常に古い諺のうちの多くの諺の場合は」
○ with ～ 「～の場合；～にとっては」《関係・立場を表す with》
○ ones = proverbs 《語の繰り返しを避ける用法》
- ℓ. 5 ◇ It is therefore legitimate to say that ～ 「したがって～と言うことは妥当なことである」《It は to … を受ける形式主語》
- ℓ. 6 ◇ popular 「①人気のある ②大衆の」
◇ that they have their source in the collective wisdom of the people は直前の that proverbs have a popular origin の言い換え。

- collective 「集合的な」
- ℓ. 7 ◇ must have been … 「…であったに違いない」《強い断定の must の完了形》
- ℓ. 8 ◇ numerous 「多数の」
 - ◇ summarize 「～を要約する」
 - ◇ did grow 《強調の did (実際に；本当に)》
- ℓ. 9 ◇ originator 「創作者；考案者」
- ℓ. 10 ◇ a case in point 「適切な例」
 - in point 「適切な」
 - ◇ Every farm worker would have felt the truth of this thought without perhaps putting it into quite those words 「農夫なら誰しも恐らくこの考えをそっくりその言葉で言い表すことがなくとも、この諺の考えが正しいと感じていたであろう」
 - would have felt : 仮定法過去完了。without perhaps putting it into ～ に条件を含む ⇨ even if he *had not put* it into ～
 - this thought : Make hay while the sun shines という言葉に含まれる考え
 - put A into B 「A (考えなど) を B (言葉など) に表現する；A を B に翻訳する」
- ℓ. 12 ◇ after a great many people had expressed the thought in their many different ways 「非常に多くの人々がその考えを様々な方法で表現してきた後で」過去のあつた時点までの継続なので過去完了形になっている。
 - ◇ by trial and error 「試行錯誤を重ねて」
- ℓ. 13 ◇ memorable 「覚えやすい」
 - ◇ it was in that form *that* it lived on as a proverb 「そのような形で、この考えは諺として生き続けたのである」
 - it is ～ that … で ‘～’ の部分を強調する強調構文。
 - live on 「生き長らえる」
- ℓ. 15 ◇ on the other hand 「その一方で」
 - ◇ it is equally evident that ～ 「～ということは同様に明らかである」
 - 《it は that ～ を受ける形式主語》
- ℓ. 16 ◇ alone 「(主格の名詞・代名詞の後で) ただ…だけ」
- ℓ. 18 ◇ trace 「(～の跡) をたどる；(出所) をつきとめる」

【6】

解答・解説

- (1) Do come and see me one of these days.
命令文を強調すると ‘Do + 原形’ になる。
- (2) We simply don't want to leave this village
simply は否定の意味を持つ語の前に置かれると「絶対に」という強調の意味になる。
Ex. This is simply not true. (これは絶対に正しくない。)
cf. This is not simply true. (これは正しいというだけではない。)
- (3) Where was it that you found this mobile phone?

疑問詞を強調構文で強調すると、‘疑問詞 + is + it + that ~?’となる。

- (4) Under no circumstances must you use your own birthday as
under no circumstances ≡ never であるから、強調のため文頭に置かれるとそのあと
は倒置されることに注意。
- (5) Little did I dream that my life would be changing in this
副詞の little が know, imagine, dream, think, guess, suspect, realize などの前に
置かれると、「少しも〔全く〕～ない」と強い否定を表す。
- (6) was not what he said that made me angry as much as how he said
It is ~ that …の強調構文と not so much A as B = not A as [so] much as B を組
み合わせた形。
(= It was not so much what he said as how he said it that made me angry.)
- (7) Only in this way can a great result
A great result can be achieved only in this way. の only in this way を強調して文頭
に置いた形。only は「～でしかない」と否定の意味を含むためその後は倒置形になるこ
とに注意。
- (8) It was only then that I realized that religion is something that people can believe
It was only when [after] A that B (Aになって初めてB) の only when A が only
then となったと考えてもよい。

【7】

ポイント

いきなりカッコ内の語句から考えずに、前後の内容からどのような接続関係になっているかを予想した上で並べ換えること。

解答・解説

- (1) (It is not) the low prices but their quality that sells our goods.
not the low prices but their quality を強調した強調構文。
○ not A but B 「AではなくB」
＜ not the low prices but their quality sells our goods
- (2) It is from advertising that a newspaper earns (most of its profits.)
from advertising (広告から) を強調した強調構文。
＜ a newspaper earns most of its profits from advertising
- (3) It is good of you to invite me.
It は to 不定詞を受ける形式主語。It is の後に人の性質を表す形容詞が来ているので意
味上の主語は of ~ で表す。It is good for you to … とすると「招待することはあなたに
にとってよいことだ」の意味になる。
- (4) It is a well-known fact that Japanese workers work too much.
It は that 節を受ける形式主語。
- (5) It is doubtful whether she will be able to come.
It は whether 節を受ける形式主語。

○ be able to *do* 「…することができる」

【8】

解答

- (1) I picked up some French.
- (2) Will you pick up some bread on the way home?
- (3) I've got to take off now.
- (4) I'll take care of him.
- (5) Could [Would] you do me a favor?
- (6) May [Could] I have your autograph, Lin?
- (7) You will feel better after a good night's sleep.
- (8) I will probably be all right after a good night's sleep.

解説

(1) (2) は pick up という基本的な句動詞を使えるかどうかのポイントの問題。

pick up の up は副詞で pick ~ up [pick up ~] の形をとる。pick up の主要な用法は次の通り。

① 「～を拾いあげる」

She dropped one of her glass slippers, which the Prince picked up and treasured.

(彼女はガラスの靴の一方を落したが、王子はそれを拾って大切にした。)

② 「～を(車に)乗せる」

Please let me pick up your sister at the station.

(あなたの妹さんを、駅まで車で迎えに行かせて下さい。)

③ 「(外国語など)を聞き覚える」

If new words were fun, they were picked up and used widely.

(新語はおもしろければ、覚えられ広範囲に使われた。)

④ 「(病気)にかかる」

pick up a cold (かぜをひく)

⑤ 「(通りがかりに、またはお得な値段で)～を買う」

Would you mind picking up something for me at the drugstore?

(ドラッグストアで何か買ってきていただけませんか。)

⑥ 「(異性を)ひっかける」

How to Pick Up Girls 「女性ナンパ法(書名)」

なお、日本語の「～をピックアップする」は「～を(念入りに)選ぶ」という意味なので、pick out である。また、pick out には「②(たくさんある中から)～を見つけ出す ③「～(意味など)を理解する」の意がある。

① She picked out the shoes that matches the dress.

(彼女はそのドレスに合う靴を選んだ。)

② I soon picked Miss Green out in the crowd, because she dressed in green.

(グリーン色の服を着ているので、私はすぐにグリーンさんを見つけ出せた。)

③ I could not pick out the meaning of this passage.

(私にはこの文章の意味がとれなかった。)

- (1) pick up の③の用法。正式に学校などで、「(習って) 習得する」という時には、learn を用いるのに対し、「聞き覚え」という時には pick up を用いる。「少し」は、ここでは、漠然と「いくらか」という意味で用いられているので some が適当。

Ex. I'd like to withdraw some money from my bank account.

(銀行で少しお金を下ろしたい。)

したがって、本問は、I picked up some English. なお、本問は、pick up を使わなければ、「フランス語のなまかじりの知識はもっている」と考えて、

I have only a smattering of French. (フランス語は少しは知っている。)と考えると、

I know some French.

としてもよい。これらの場合、pick up と違って、現在形になる点に注意。

- (2) pick up の⑤の用法。「…して下さい」は、身内の依頼と考えられるので、Will you …? が適当。「パン」には、「漠然とした量」を示す some をつける。形は疑問文でも、肯定の気持ちが強い時や、何かを頼んだり勧めたりする時は some を用いる。

Ex. Didn't she ask you some questions? (彼女はいくつか質問しなかったのですか。)

Won't you have some cookies? (クッキーを少しいかがですか。)

「帰りに」は「家に来る途中」と考えて、on my way home とする。この home は「副詞」であるが、このへんはあまり気にせず、on one's way home という表現自体を覚えるべき。

Ex. I'm on my way home. (家へ〔故国へ〕帰る途中です。)

したがって、本問は

Will you pick up some bread on the way home? となる。

- (3) 「今日はこれでおいとましよう。」に対応する英語は数多くある。思いつくまま挙げてみると、

I have to go.

I must be going now.

I'm afraid I must be going now.

I'd better be running along now.

I've got to take off now.

I've got to be on my way.

I think I'd better be going now.

I'm afraid I must be going now.

などが標準的なものとして挙げられる。くだけた仲間うちなら、

Be seeing you.

Better be going.

Better get moving.

I'd better be off.

Time to hit the road.

cf. hit the road は「旅に出る」

(= take the road; start on a journey, especially by road)

などが使われるだろう。したがって「take を用いて」という条件にあうものを選べば

I've got to take off now.

となる。

別解としては、少々堅苦しい感じがするが、I'll take my leave for today. を挙げることができる。この leave は名詞で「別れ；いとまごい」の意味。take (one's) leave (of 人) で「～に別れを告げる」になる。

(4) take care of ～ は様々な意味を持つ句動詞で、「～を始末する、殺す」の意で用いられる場合もある。こうした句動詞は複数の意味を持っているのが普通なので、あまりにも短絡的に固定した訳語では覚えられない方がよい。ここでは take care of ～ を詳細にチェックしてみよう。

①「～の世話をする；面倒をみる」

e.g. take care of an invalid (病人の世話をする)

Are you being taken care of? ((店で) ご用はうかがっていますか。)

②「(物事を)(責任を持って)引き受ける」

e.g. take care of paying a bill (勘定の支払を引き受ける)

③「～に気をつける」

Ex. Take care of yourself. (体には気をつけろ。)

④「～を処理する」

e.g. take care of a problem (問題を処理する)

take care of every obstacle (障害をすべて処理する)

The problem will take care of itself. (その問題は時が解決する。)

⑤「～を始末する；やっつける；殺す」(= beat)

Ex. All our enemies have been taken care of. (敵は全員片づけた。)

(5) 「お願いがあるんですが。」に対応する英語は入試で頻出するので、ここでしっかり身につけておこう。模範解答として最適なのは、

a) Could [Would] you do me a favor?

である。他には、

b) Can [Will] you do me a favor?

c) May I ask | you a favor?
| a favor of you?

d) I have a favor to | ask you.
| ask of you.

がある。本問は、「6語で」という条件があるので、解答としては a) を書いてあればよい。

(6) 日本語の「サイン」に対応する英語には

- a) 「(手紙・正式文書などにする) 署名」… signature
- b) 「(有名人などの自筆の) 署名」には… autograph
- c) 「合図」… sign
- d) 「正弦」… sine があるが、

ここでは、b) の autograph が当てはまるのは明らかである。

問題は「…していただけますか」の部分であるが、

May [Could] I have …? の形式が普通に用いられる。したがって、本問は、

May [Could] I have your autograph, Lin? となる。

(7) 一般論なので主語は you。「よく眠ると」は「十分に眠った後で」と考えて、after you sleep well。「翌朝は」は the next morning。全体で副詞の働きなので前置詞はいらない。「気分がよいものだ」は you will feel good, と考えて、全体をまとめると、

After you sleep well, you will feel good the next morning.

となり、正しい英文ではあるが、ここでは you で始めるという条件が与えられている。実は、

You will feel better after a good night's sleep.

という慣用表現があるのである。この文を直訳すれば、「十分な夜の睡眠の後では、(翌朝になると眠る前よりも) ずっと気分がよい」となり、() の部分は after a good night's sleep から言及しなくても意味は十分通じるので、英語では慣用的に省略してある。

(8) 「たぶん一晩ぐっすり眠れば治ります」は日本語だけでは誰が治るのかははっきりしないが、「I で始めて」という条件が与えられているので、自分自身について言っているのだとわかる。

「たぶん」は probably。perhaps は「ひょっとしたら」という意味で、可能性の低い場合に用いるので、ここでは不可。「一晩ぐっすり眠れば」は、(7) で用いた after a good night's sleep を用いる。問題は I を主語にして「治ります」をどう表すかということであるが、

I will	recover (from my illness)	
	be over my illness	
	be all right	
	feel better	
	get	well better

などが考えられる。この中で一番響くのが、I will be all right であるというのが、テキサス州出身のインフォーマントのコメントであるので、これを用いて全体をまとめると、

I will probably be all right after a good night's sleep.

となる。

今日の一言

First come, first served. 「早い者勝ち。」

省略を補うと, The first person to come will be the first person to be served. となるだろうか。スーパーのちらしなどで「先着順」という意味でも用いられる表現だが, 受験生の諸君にも関係がある。高校2年の2学期も終わるこの時期, 受験生としてのスタートを早く切った者が, 合格により近づくのは間違いない。そろそろ入試に真剣に取り組んでいこう。私たちも応援している。





会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--